

# I 調査結果の概要

## 1 漁業・養殖業生産量

平成 27 年の我が国の漁業・養殖業の生産量は 463 万 706 t で、前年に比べ 13 万 4,647 t (2.8%) 減少した。

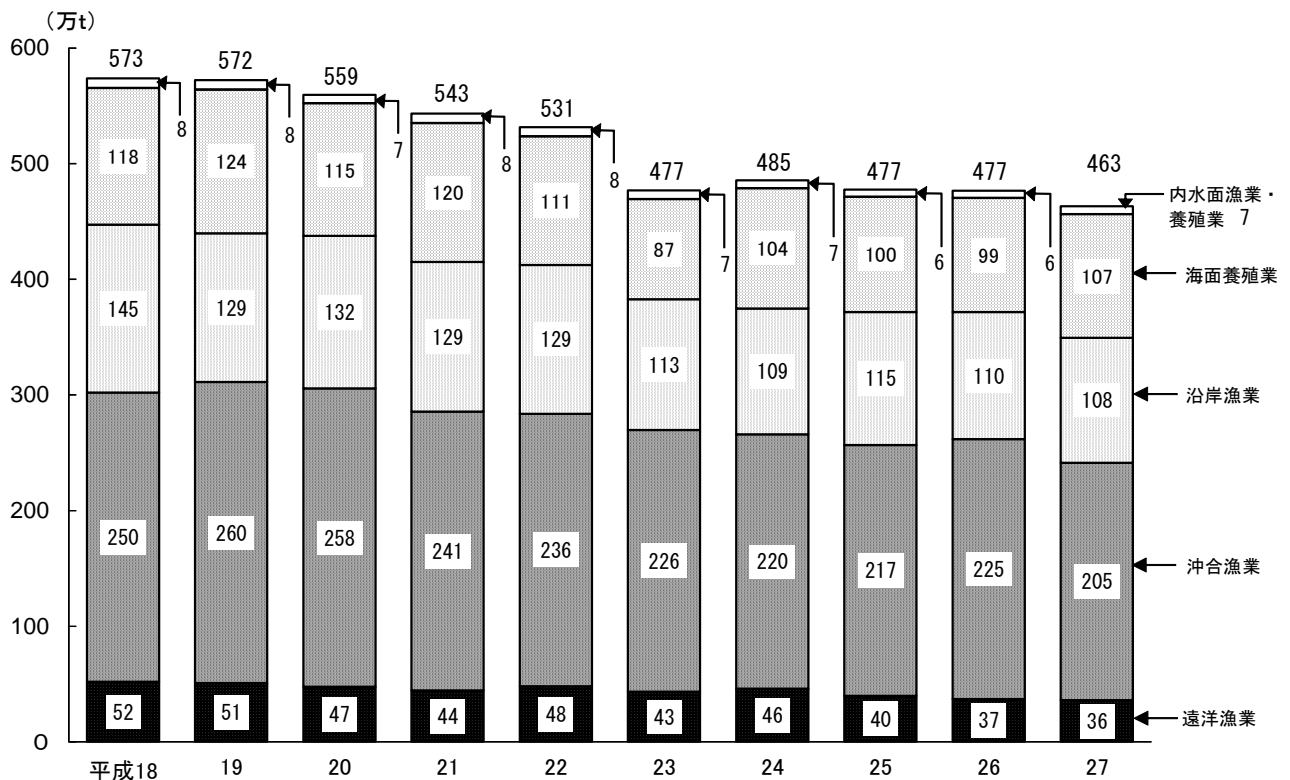
このうち、海面漁業の漁獲量は 349 万 2,436 t で、前年に比べ 22 万 804 t (5.9%) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は 35 万 8,173 t で、前年に比べ 1 万 612 t (2.9%) 減少、沖合漁業は 205 万 3,190 t で、前年に比べ 19 万 3,061 t (8.6%) 減少、沿岸漁業は 108 万 1,073 t で、前年に比べ 1 万 7,130 t (1.6%) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は 106 万 9,017 t で、前年に比べ 8 万 1,378 t (8.2%) 増加した。

内水面漁業・養殖業の生産量は 6 万 9,253 t で、前年に比べ 4,779 t (7.4%) 増加した。

図 1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

## 2 海面漁業

海面漁業の漁獲量は349万2,436 tで、前年に比べ22万804 t（5.9%）減少した。

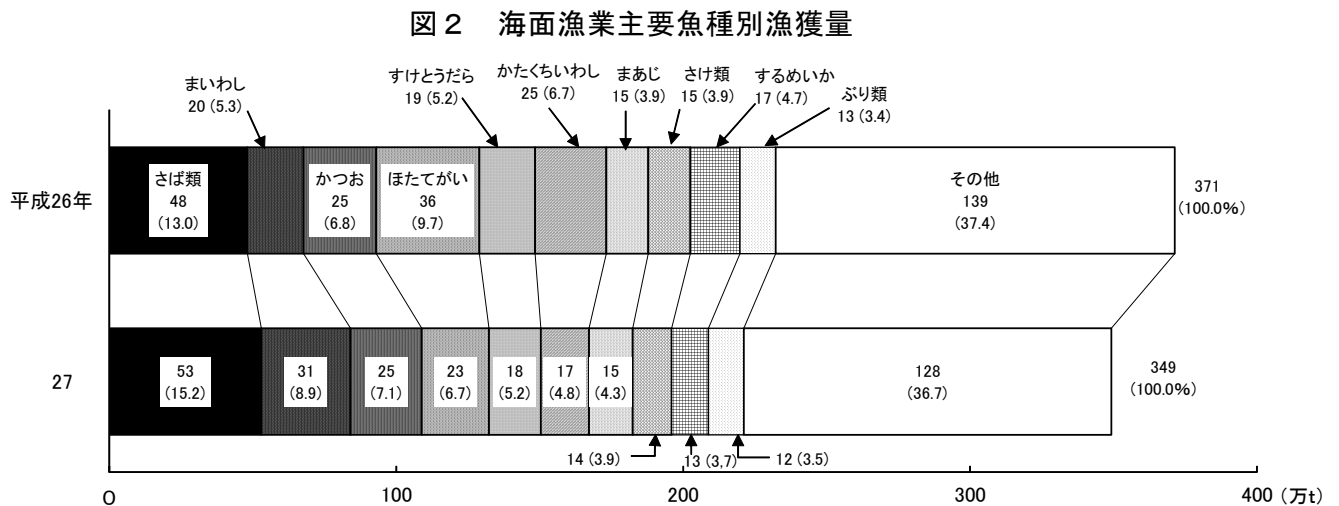
東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は10万8,752 tで、前年と比べて5,279 t（4.6%）減少、宮城県の漁獲量は16万5,320 tであり、前年と比べて1万2,108 t（6.8%）減少した。

また、福島県の漁獲量は4万5,446 tであり、さんま棒受網漁業等での漁獲量の減少から、前年と比べ1万4,344 t（24.0%）減少した。

### 主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、さば類、まいわし、うるめいわし、きはだ、まあじであり、減少した主な魚種は、ほたてがい、さんま、かたくちいわし、するめいか、すけとうだらであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が15.2%、まいわしが8.9%、かつおが7.1%、ほたてがいが6.7%、すけとうだらが5.2%、かたくちいわしが4.8%、まあじが4.3%、さけ類が3.9%、するめいか3.7%、ぶり類が3.5%となった。



(1) さば類

漁獲量は52万9,977 tで、前年に比べ4万8,194 t（10.0%）増加した。

これは、三重県、福島県等で減少したものの、愛媛県、静岡県等で増加したためである。

(2) まいわし

漁獲量は31万1,054 tで、前年に比べ11万5,328 t（58.9%）増加した。

これは、愛媛県、島根県等で増加したためである。

(3) かつお

漁獲量は24万8,314 tで、前年に比べ4,713 t（1.9%）減少した。

これは、鹿児島県等で減少したためである。

- (4) ほたてがい  
 漁獲量は23万3,885 tで、前年に比べ12万5,097 t (34.8%) 減少した。  
 これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で減少したためである。
- (5) すけとうだら  
 漁獲量は18万349 tで、前年に比べ1万4,571 t (7.5%) 減少した。  
 これは、漁獲量のほとんどを占める北海道等で減少したためである。
- (6) かたくちいわし  
 漁獲量は16万8,745 tで、前年に比べ7万9,324 t (32.0%) 減少した。  
 これは、千葉県、愛媛県等で減少したためである。
- (7) まあじ  
 漁獲量は15万1,706 tで、前年に比べ5,939 t (4.1%) 増加した。  
 これは、島根県等で減少したものの、長崎県等で増加したためである。
- (8) さけ類  
 漁獲量は13万5,876 tで、前年に比べ1万765 t (7.3%) 減少した。  
 これは、岩手県等で減少したためである。
- (9) するめいか  
 漁獲量は12万8,838 tで、前年に比べて4万3,850 t (25.4%) 減少した。  
 これは、北海道、青森県等で減少したためである。
- (10) ぶり類  
 漁獲量は12万2,641 tで、前年に比べて2,512 t (2.0%) 減少した。  
 これは、長崎県、茨城県等で増加したものの、島根県等で減少したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位～5位)

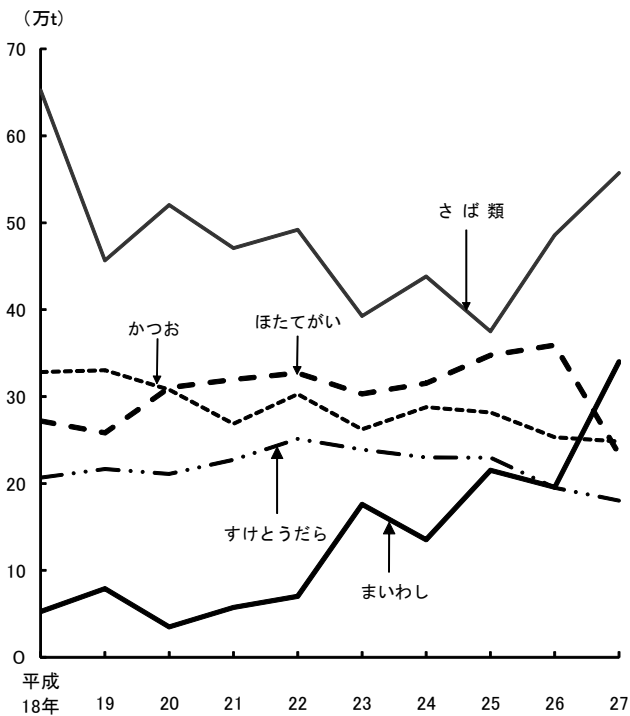
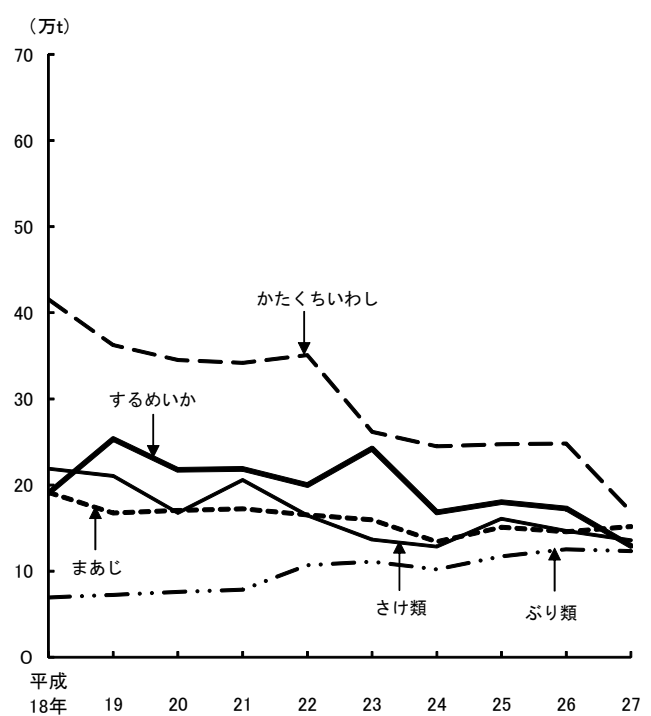


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位6位～10位)



### 3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は106万9,017 tで、前年に比べ8万1,378 t (8.2%)増加した。

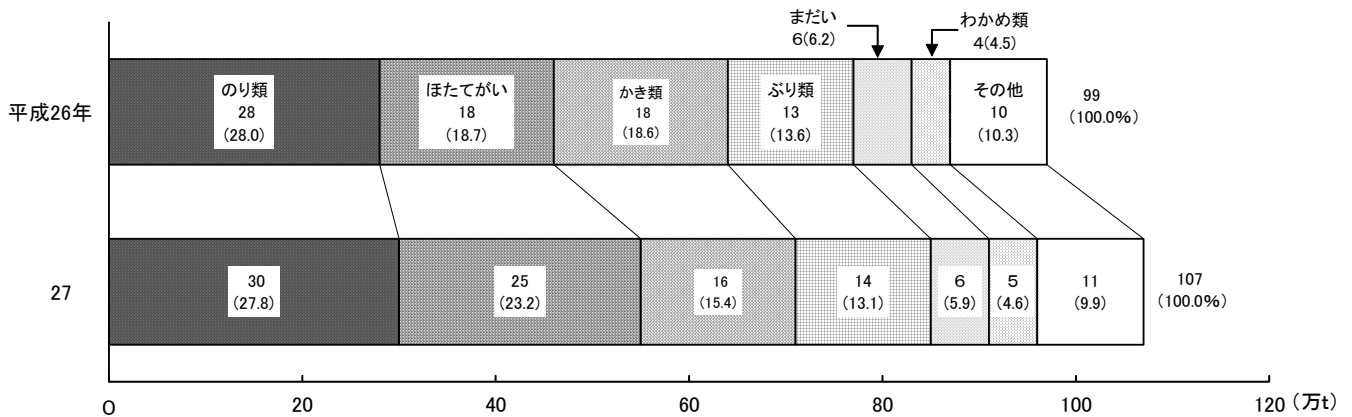
これは、ほたてがいが、のり類等の収穫量が増加したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は4万2,754 t、宮城県の収穫量は7万6,752 tであり、前年に比べてそれぞれ1万712 t (33.4%)、2,967 t (4.0%)増加した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがいが、のり類(生重量)、こんぶ等であり、減少した主な魚種は、かき類、もずく類、ふぐ類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が27.8%、ほたてがいが23.2%、かき類が15.4%、ぶり類が13.1%、まだいが5.9%、わかめ類が4.6%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



#### (1) 魚類

収穫量は24万6,089 tで、前年に比べ8,125 t (3.4%)増加した。

##### ア ぶり類

収穫量は14万292 tで、前年に比べ5,684 t (4.2%)増加した。

これは、愛媛県で年越出荷が増加したこと等により増加したためである。

##### イ まだい

収穫量は6万3,605 tで、前年に比べ1,903 t (3.1%)増加した。

これは、熊本県で施設規模を拡大したこと等により増加したためである。

##### ウ ぎんざけ

収穫量は1万3,937 tで、前年に比べ1,135 t (8.9%)増加した。

これは、宮城県で増加したためである。

#### (2) 貝類

収穫量は41万3,028 tで、前年に比べ4万4,314 t (12.0%)増加した。

##### ア ほたてがいが

収穫量は24万8,209 tで、前年に比べ6万3,621 t (34.5%)増加した。

これは、青森県でへい死が少なく生育がよかったこと等により増加したためである。

### イ かき類

収穫量は16万4,380 tで、前年に比べ1万9,305 t (10.5%) 減少した。  
これは、広島県で種苗不足の影響等により減少したためである。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (魚類)

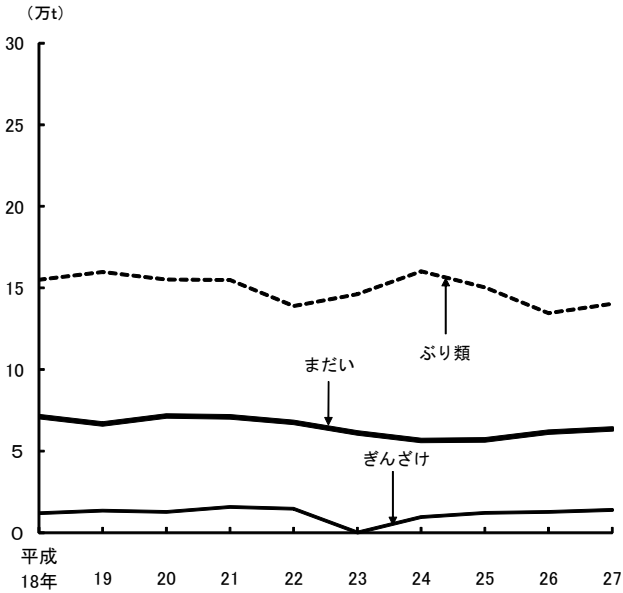
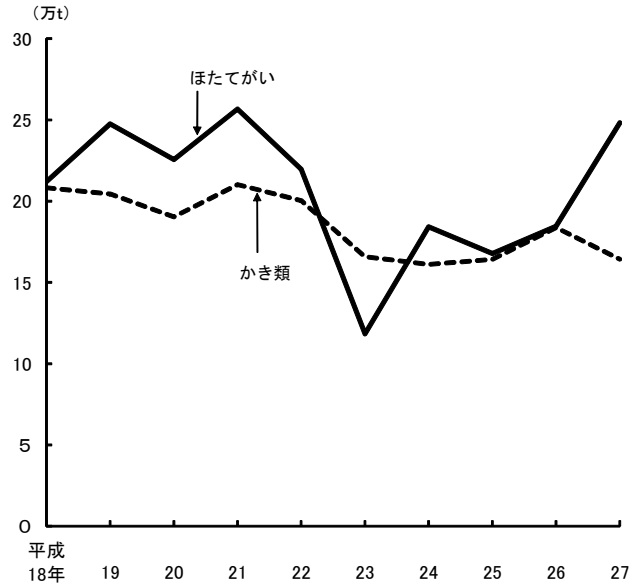


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (貝類)



### (3) 海藻類

収穫量は40万181 tで、前年に比べ2万6,272 t (7.0%) 増加した。

#### ア のり類 (生重量)

収穫量は29万7,370 tで、前年に比べ2万1,241 t (7.7%) 増加した。

これは、兵庫県で生育がよかったこと等により増加したためである。

#### イ わかめ類

収穫量は4万8,951 tで、前年に比べ4,235 t (9.5%) 増加した。

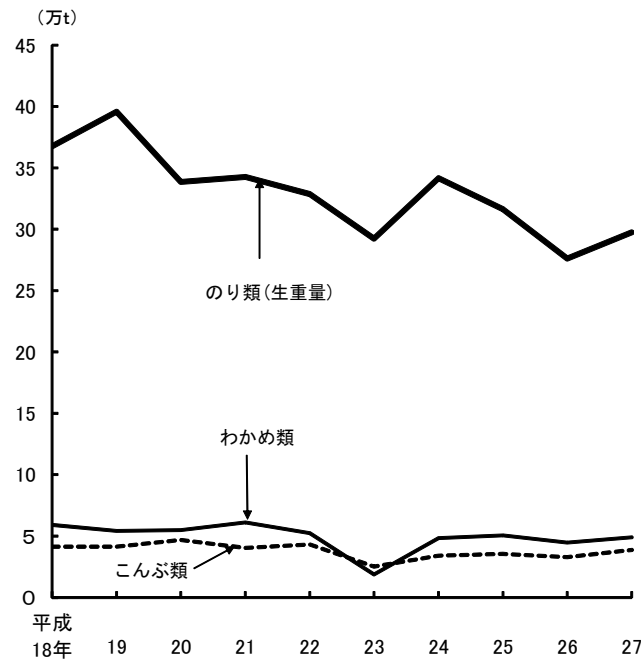
これは、岩手県及び宮城県で生育がよかったこと等により増加したためである。

#### ウ こんぶ類

収穫量は3万8,671 tで、前年に比べ5,774 t (17.6%) 増加した。

これは、岩手県で生育がよかったこと等により増加したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



#### 4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 112 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 3 万 2,917 t で、前年に比べ 2,314 t（7.6%）増加した。

##### (1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 1 万 6,478 t で、前年に比べ 1,397 t（9.3%）増加した。

また、湖沼における漁獲量は 1 万 6,440 t で、前年に比べ 918 t（5.9%）増加した。

##### (2) 主要魚種別漁獲量

###### ア さけ類

漁獲量は 1 万 2,330 t で、前年に比べ 2,118 t（20.7%）増加した。

これは、北海道でさけ類の遡上そじょうの増加等により増加したためである。

###### イ しじみ

漁獲量は 9,819 t で、前年に比べ 15 t（0.2%）増加した。

###### ウ あゆ

漁獲量は 2,407 t で、前年に比べ 12 t（0.5%）増加した。

###### エ わかさぎ

漁獲量は 1,417 t で、前年に比べ 175 t（14.1%）増加した。

これは、青森県等で増加したためである。

###### オ しらうお

漁獲量は 774 t で、前年に比べ 68 t（9.6%）増加した。

これは、青森県等で増加したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

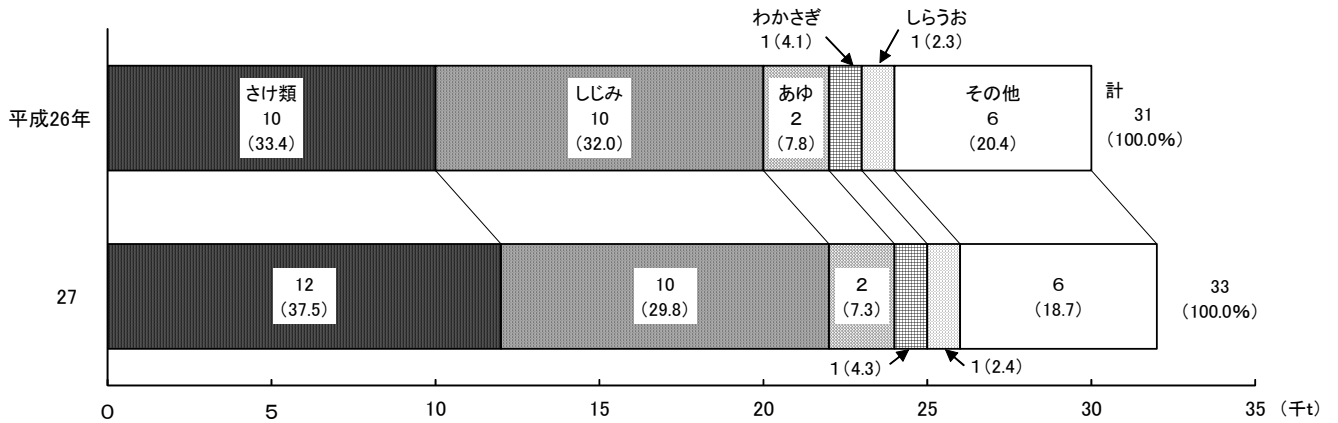
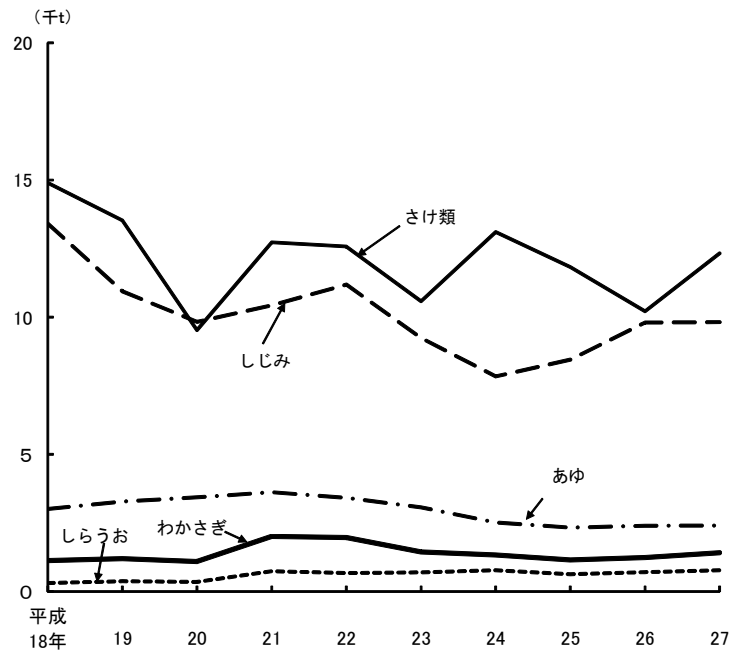


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収獲量は3万6,336 tで、前年に比べ2,465 t (7.3%)増加した。

(1) うなぎ

収獲量は2万119 tで、前年に比べ2,492 t (14.1%)増加した。

これは、鹿児島県、静岡県等で池入れ量が増加したためである。

(2) あゆ

収獲量は5,084 tで、前年に比べ79 t (1.5%)減少した。

(3) にじます

収獲量は4,836 tで、前年に比べ50 t (1.0%)増加した。



(4) こい

収獲量は 3,256 t で、前年に比べ 17 t (0.5%) 減少した。

図 11 内水面養殖業主要魚種別収獲量

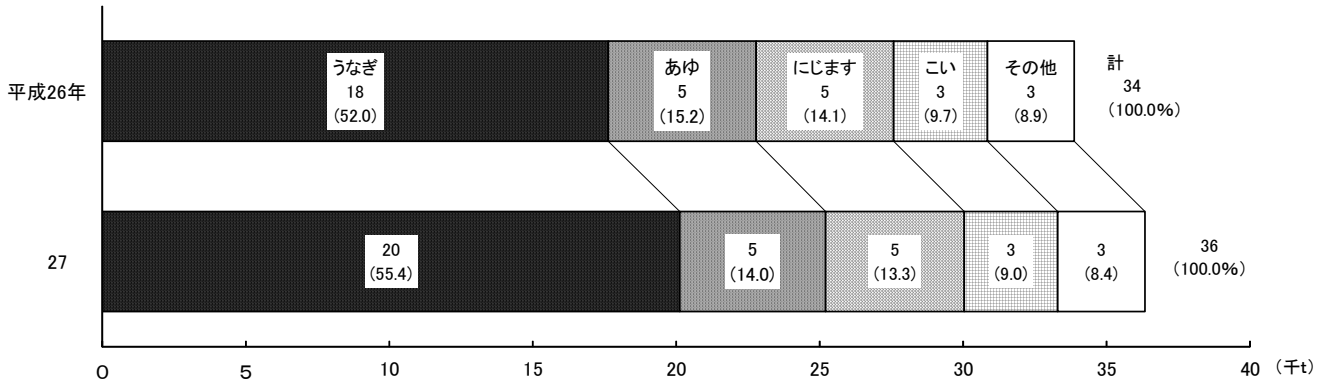


図 12 内水面養殖業主要魚種別収獲量の推移

